



あなたの選ぶネピアが、子どもたちを守るトイレになる。

nepia 千のトイレプロジェクト

We Support



Press Release

2012年8月24日

王子製紙株式会社

王子ネピア株式会社

公益財団法人日本ユニセフ協会

トイレと水の問題で失われてゆく命を守りたい ネピア×ユニセフ タイアップキャンペーン

「nepia 千のトイレプロジェクト／第5フェーズ・2012～2013」

～あなたの選ぶネピアが、子どもたちを守るトイレになる～

2012年9月1日(土)～12月31日(月)まで日本全国で展開

王子製紙株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:進藤清貴、以下王子製紙)、王子ネピア株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:清水紀暁、以下王子ネピア)、および公益財団法人日本ユニセフ協会(所在地:東京都港区、会長:赤松良子、以下日本ユニセフ協会)は、開発途上国のトイレと水の問題を改善することを目的として、2008年に「nepia千のトイレプロジェクト」を立ち上げ、東ティモール民主共和国(以下、東ティモール)におけるユニセフ(国際連合児童基金)の水と衛生の活動を支援してまいりました。5年目を迎える本年も、継続支援してまいります。

王子製紙グループは、「環境と文化への貢献 改革とスピード 世界からの信頼」を企業理念に、世界中での植林をはじめ、社会への貢献活動に取り組んでおります。また、王子ネピアは、“やわらか♡ハート”のスローガンのもと、日ごろから、すべての製品と企業活動を通じてみなさまの健康的で快適な暮らしのお手伝いを目指しております。

一方、世界では毎年80万人を超える5歳未満の子どもたちが、汚れた水とトイレの不備からおなかをこわし、脱水症状などで命を落としているという事実があります。家庭の衛生に携わる製品をお届けする企業である王子ネピアは、王子製紙グループの一員として、世界の「トイレと水の問題」を見つめて本プロジェクトを実施し、多くのご支持の中、目標を上回る成果を達成し続けて参りました(参考資料①)。

本年、「nepia 千のトイレプロジェクト／第5フェーズ」では、2012年9月1日(土)から12月31日(月)までの4ヶ月間、日本全国でキャンペーンを展開いたします。キャンペーン期間中の対象商品の売上の一部で、ユニセフの「水と衛生に関する支援活動」をサポートいたします。アジアで一番若い独立国で、国づくりが進む今が重要な時期である、東ティモールを支援対象国として、屋外排泄の根絶を目指します。内容としましては、1,000の世帯での改善されたトイレづくり、2つの集落と近隣の小学校の給水設備の建設、および、衛生習慣の普及と定着のための活動を支援します。

「nepia千のトイレプロジェクト」にご賛同いただきましたみなさまの想いととも、東ティモールの子どもたちとその家族の命と健康を守ることを目指します。

キャンペーンの開始に先駆け王子ネピアでは、本年4月に、プロジェクト開始以来5回目となる現地視察を実施しました。これまでの支援地域での成果、今後の支援予定地などでのユニセフの活動をつぶさに視察するとともに、村人との交流を深めてまいりました。現地の状況と支援の成果および本年の活動計画などは、ウェブサイト(<http://1000toilets.com>)で詳しくレポートしてまいります。



また、新聞、雑誌などによるキャンペーン告知のほか、今年も視察に同行したフォトグラファー小林紀晴氏(参考資料②)の写真を用いた、プロジェクト告知パッケージ商品を発売(2012年9月より数量限定販売)いたします。販売店様のご協力のもと、店頭を通じた告知活動を行ない、わが国において、世界の「水と衛生の問題」への関心を高め、理解を深めることに努めてまいります。

<本件に関する報道機関からのお問い合わせ先>

「nepia 千のトイレプロジェクト」

王子ネピア株式会社 担当 斎藤、大堀

Tel:03-3248-2855/Fax:03-3547-1454

【参考資料①】

■ 支援対象国



東ティモール民主共和国

東ティモール民主共和国は、2002年5月に独立したアジアで一番若い国です。人口はおよそ100万人。国土面積は約14,000km²。美しい海に囲まれたこの国は、15歳未満の人口が国民の約50%と若々しい活気にあふれていますが、独立前後の混乱で、もともと乏しかった国内のインフラに激しい打撃を受け、特に、農村部では保健や教育などの基本的なサービスが十分に行き届いていません。

2009年の保健統計調査によると、衛生的なトイレを使える人の割合は、農村部ではまだ35.8%に過ぎません。

■ プロジェクト第5フェーズの目標

第5フェーズの本年は、東ティモールの4つの県(アイレウ、エルメラ、リキサ、マナウトウ)を対象に1,000の世帯での改善されたトイレづくりと、2つの集落と近隣の小学校の給水設備の建設、および、衛生習慣の普及と定着のための活動を支援します。

具体的な活動

- ① 東ティモールの16の集落が、屋外排泄の根絶(注1)を宣言し、改善されたトイレを使えるようになった世帯が、より良い衛生習慣についての情報を得られるようにする活動を支援します。ユニセフや、地元NGOの指導協力のもと、地域住民が主体となって、自ら、トイレのある暮らしについて考え、持続的に使用できるトイレの作り方を学び、各世帯の暮らしに合ったトイレづくりに取り組みます。

(注1)屋外排泄の根絶: 村の全世帯、全公共施設に改善されたトイレへのアクセスがあり、住民全員がトイレを使用していること。また、村に屋外排泄の形跡がないこと。

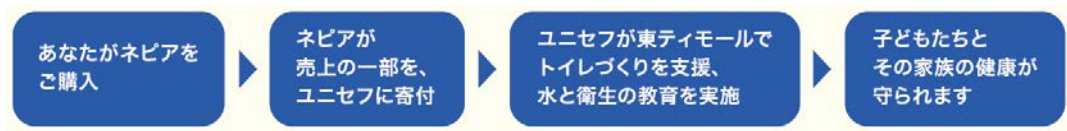


- ② 2つの集落と近隣の小学校の給水設備の建設を支援します。

本年は、対象地域の2つの集落で、コミュニティーや近隣の学校が給水設備を使えるように支援します。地元で手に入らない資材・必要な道具・技術は、ユニセフが地元NGOなどのパートナーを通じて提供し、住民が主体となって整備を進めます。給水設備の整備により、清潔で安全な水を利用できるようになるほか、子どもたちや女性の水汲みの労働が軽減されます。

■ プロジェクトへの参加方法

2012年9月1日(土)から12月31日(月)までのキャンペーン期間中、キャンペーンの対象となるネピア商品をお買い上げになるだけで、どなたでもキャンペーンに参加できます。



また、郵便振替での募金でもこのキャンペーンに参加することができます。

◆ 郵便局(ゆうちょ銀行) 振替口座:00190-5-31000

◆ 口座名義:(公財)日本ユニセフ協会

※ 通信欄に「ネピア」と必ず明記ください。

※ 窓口での募金の場合は、送金手数料が免除されます。

郵便振替での募金の場合は、日本ユニセフ協会より領収書が発行されます。(日本ユニセフ協会への寄付金は、特定公益増進法人への寄付として税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは日本ユニセフ協会のホームページ <http://www.unicef.or.jp> をご覧ください。

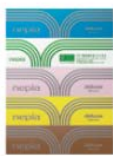
■ キャンペーン対象商品

ネピアデラックストイレットロール



12ロールシングル/ダブル/ダブル桜

ネピア デラックスティッシュ



400枚(200組) 5個パック

ネピア ネビネビトイレットロール



12ロールシングル/ダブル/ダブル桜

18ロールシングル/ダブル

ネピア ネビネビティッシュ



320枚(160組) 5個パック

ネピア ロングロール



8ロールシングル/ダブル/ダブル桜

ネピア 鼻セレブ



400枚(200組)

400枚(200組) 3個パック

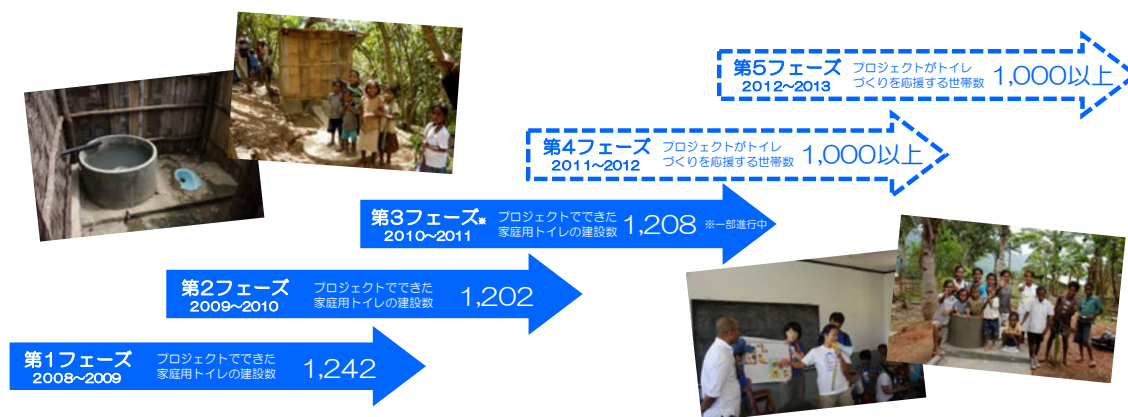
ポケットティッシュ24枚(12組) 4個パック/16個パック

■プロジェクトの実績

2008年にキャンペーンによる寄付で立ち上がった千のトイレプロジェクトは、2008年度の第1フェーズ以来、本年は第5フェーズとなります。これまでに、第1・第2・第3フェーズのトイレづくりがほぼ完了し、アイレウ、エルメラ、リキサ、マナトゥトゥ、ディリ、オエクシの6県に、合計で3,500以上の家庭用トイレが完成しました。また、学校や地域のトイレや給水設備は、合計で29の施設が改善され、安全で衛生的なトイレを使える人の数が増えたことはもちろん、乳児の死亡率、5歳未満児の死亡率などの改善にも貢献しています。

現在は第4フェーズで、16の集落の1,000の世帯を対象にしたプロジェクトが進行中です。

※なお、2011年度は、東日本大震災の発生を受け、キャンペーンの実施は自粛し、第4フェーズに必要な資金を、企業寄付のかたちで提供させていただきました。



プロジェクト実績・進捗	第1フェーズ 2008~2009	第2フェーズ 2009~2010	第3フェーズ 2010~2011	第4フェーズ 2011~2012
進行状況	完了	完了	一部活動中	活動中
支援対象地	エルメラ県 リキサ県 マナトゥトゥ県 ディリ県 オエクシ県	アイレウ県 エルメラ県 リキサ県	アイレウ県 エルメラ県 リキサ県	アイレウ県 エルメラ県
寄付金額	20,437,281円	24,413,914円	24,249,587円	10,000,000円 ※企業寄付
家庭用トイレの建設数	1,242	1,202	1,208	目標1,000以上
学校や地域のトイレや給水設備の建設、または修復数	18※	7	4	-

※第1フェーズの給水設備の建設には、ユニセフも費用の一部を拠出しています。

【参考資料②】

■ フォトグラファー 小林紀晴氏について



【プロフィール】

1968年、長野県生まれ。アジアの旅先で出会った日本人の若者の姿を写真と文章で綴った「ASIAN JAPANESE」でデビュー。多くの若者の絶大な共感を呼ぶ。「DAYS ASIA」で1997年度日本写真協会新人賞受賞。日本で最も注目される写真家のひとりとして、次々と意欲的な創作に取り組んでいる。

(<http://www.kobayashikisei.com>)

■ 王子製紙について

王子製紙は、日本で初めて本格的な近代産業として製紙業を開始しました。創業者である渋沢栄一翁の言葉「論語と算盤」、すなわち道徳と経済の合一、倫理と利益の両立という理念を受け継ぎ、事業遂行の基本的精神を表現するものとして、「環境と文化への貢献」、「革新とスピード」、「世界からの信頼」を企業理念としています。「環境と文化への貢献」では、王子製紙は1873年の創業以来約140年間、「読む」「書く」「包む」「拭く」生活のさまざまな場で用いられる紙の安定供給を通じて文化に貢献する会社であることを基本理念としてきました。同時に、森のリサイクル(海外植林)、紙のリサイクル(古紙リサイクル)の推進により積極的に環境保全と循環型社会に貢献する企業であることを目指しています。

(<http://www.ojipaper.co.jp>)

■ 王子ネピアについて

王子ネピアは、“やわらかハート“のスローガンのもと、すべての商品を通じてみなさまの快適な暮らしのお手伝いを目指しております。ティッシュやトイレットロールをはじめとしてキッチンタオル、赤ちゃん用紙おむつ、大人用紙おむつにいたるまで、お客様の生活に幅広く密着したかたちで、やわらかな肌ざわり、やわらかな使い心地の追求を続けて参りました。また、社会の課題に対して、企業には何ができるだろうと考え、2007年からは、本プロジェクトのきっかけともなった『うんち教室』を、日本トイレ研究所と共に日本の小学校で実施し、いいうんちをすることの大切さを伝える活動を続けています。他には、赤ちゃん用紙おむつ「nepia GENKI!」の売上の一部で、入院中の子どもたちに笑顔を届ける「日本クリニックラウン協会」の活動を支援する『GENKI! supportsクリニックラウン』を継続実施しています。また、2011年に発生した東日本大震災を受け、被災地支援活動「支える人を支えよう」を開始しました。本年度からは、大人用紙おむつ「ネピア テンダー」の売上の一部で、被災地福島の高齢者を支える「まごころサービス福島センター」の活動を支援する『ネピアテンダー被災地高齢者支援活動 支える人を支えよう!』として、活動を継続実施しています。

(<http://www.nepia.co.jp>)

■ ユニセフについて

ユニセフ(国際連合児童基金)は、世界150以上の国と地域で、子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動をしている国連機関です。ユニセフは、開発途上国で男女を問わずすべての子どもたちに保健や栄養、水と衛生、教育などの基本的なサービスを普及、また、暴力や搾取、HIV／エイズの脅威からの保護など様々な支援事業を展開しています。活動資金は、すべて個人や企業・団体からの募金と、各国政府からの任意拠出金で支えられています。

40年以上にわたり、ユニセフは安全な水と衛生施設を必要としている人々に提供するためのプログラムを実施しており、井戸やトイレの建設や水と衛生に関する啓蒙活動を展開しています。「安全な水と衛生の確保」はユニセフが中期事業計画(2006年～2013年)で掲げる5つの重点分野のひとつ「子どもの生存と発達」に含まれる事業で、様々な政府機関やNGO等のパートナーと協力しながら活動しています。東ティモールでは、2000年以降、水と衛生分野への活動を実施しています。(http://www.unicef.org)

■ 日本ユニセフ協会について

公益財団法人日本ユニセフ協会は、先進国36カ国にあるユニセフ国内委員会のひとつで、日本国内において民間で唯一ユニセフを代表する組織として、ユニセフ活動の広報、政策提言(アドボカシー)、募金活動を担っています。(http://www.unicef.or.jp)